

張揚映画『スパイシー・ラブスープ』試論

田 中 弥 生*

1. はじめに

本稿では、1990年代半ばに現れた中国映画の「第六世代」と呼ばれる監督たちの特徴を、1998年に公開された張揚の劇場映画第一作『スパイシー・ラブスープ』にみる現代中国の恋愛や結婚という主題を一例として考察していくものである。¹⁾

中国映画の「世代」とは、映画監督を彼らの主要な作品の発表時期や作品の特徴により各年代に区分する方法を指す。本稿で扱う「第六世代」監督は最も新しい世代なのだが、彼ら「第六世代」は常に直前の「第五世代」と比較される立場にある。「第五世代」監督とは少年時代に文化大革命（1966－1976）を直接体験し、1980年代到北京電影学院を卒業した監督たちである。「第五世代」以前はリアリズム的手法をもとにし生活の本質と矛盾をつき、あるいは、日常の平凡で些細なことから社会と人生の哲理を見出す作風が「第三世代」「第四世代」と続いた。しかし、「第五世代」は映画を通して民族文化の歴史や民族心理の構造を探ろうと渴望し、特に主題、叙事、人物像、カメラワークなどで「第四世代」までとは全く違う新境地を開く。彼ら「第五世代」の作品は主観的で象徴的で寓意性が特に強いと考えられている。²⁾

では、「第五世代」に続く「第六世代」監督とは、どのような人たちで、どのような特徴があるのだろうか。彼ら「第六世代」は1960年代から70年代に生まれ、多くは北京電影学院を、他に中央戲劇学院・上海戲劇学院を1980年代後半に卒業して、中国が改革開放、市場経済へ大きく舵を切る1990年以降に映画を撮り始める。楊遠嬰（2001 [2002]）は第五世代と比較した第六世代の特徴として、「青春の思慕と都市空間」「現実の辺縁」「集団神話の崩壊」「都市中国の様相」「個人の自由な叙事」を挙げている。そして、中央戲劇学院出身の張揚はこの「第六世代」に属しているのである。アメリカ人にプロデュースされた、張揚の第一作『スパイシー・ラブスープ』が低予算で制作されながらも大ヒットした³⁾のは、泣けたり笑えたり悲しかったりという、現代の都市に生きる数世代の愛情の悲喜こもごものストーリーが飾らないリアルさだったりロマンチックだったり諧謔的な解釈でもって表現され、身近に起こる出来事を通して人の情感に訴える映画として成り立っているからなのである。⁴⁾それゆえ本稿で張揚の作品を取り上げるのであり、つぎに、『スパイシー・ラブスープ』の製作過程と映画に現れる恋愛および結婚像の描かれ方を見ていきたい。

* 比較文化学専攻

2. 張揚と『スパイシー・ラブスープ』

2.1. 張揚と映画

まず張揚がどのようにして映画監督への道を歩んだのかふれておこう。1967年に北京電影制片廠の映画監督・張華勛⁵⁾を父として北京に生まれ、本名は張楊⁶⁾という。父の仕事場で暮らした張揚は「あの頃は全国で十数部の映画だけで、どの映画も何度も見たので、印象深いです。(中略)北電大院(北京映画制作所ホール)では土曜日と日曜日は映画を上映していたし、内部向けの作品を観られることもあったので、機会は多かったのです。あの頃は選べるような娯楽もなかったし、私たちは映画がとても神秘的なもので、みんなが見ていると考えていたのです。」「だいたい中学からです。ただあの頃は映画という業界に入りたいと考えていただけで、父が北京電影制片廠の監督だったので、中央戲劇学院を受けました。」「⁷⁾と当時を振り返っている。1986年の大学受験では広州の中山大学中文系に入学することになったが「私はずっと芝居に興味があったので、中山大学に行ってから、劇団を立ち上げて責任者をしていました。私たちは芝居をいくつか上演して、あの時私はけっこう活発だったのです」⁸⁾と芝居にのめりこんでいく。2年後に当初の希望通り中央戲劇学院87年級として再入学して導演系(監督科)に学ぶ。舞台の演出やMTV作製にかかわり、98年にアメリカ人ピーター・ロア(中国名、羅異)のプロデュース、そしてロアが設立した映画会社の第一作として『スパイシー・ラブスープ』を撮り劇映画監督としてデビューする。処女作で、第4回華表獎最優秀新人監督獎(1997)および第18回金鷄獎最優秀新人監督獎(1998)を受賞する。その後の監督作品に、『こころの湯』(1999、原題『洗澡 shower』)、『昨天 Quitting』(2001、日本未公開)、『胡同のひまわり』(2004、原題『向日葵 Sunflower』)、『帰郷』(2006、原題『落葉帰根 GettingHome』)がある。

張揚の『スパイシー・ラブスープ』は「プロデュースして出来上がった」ものである。ピーター・ロアは中国映画に新しい刺激を与え若い映画家を育てるために、また主要なマーケットである若者向けの映画を作るために、若い監督を起用したのである。それから脚本のアイデアが集められ10カ月近い討論の後に制作スタッフが決められ、プロモーションも重点的に行われた。また映画の副次的な可能性では、劇中の音楽をより良くするために中国・台湾・香港の歌手の曲が使われ、サウンドトラックも発売され、国外の状況と近づいたのである。⁹⁾張揚は「私自身は商業映画を撮ることができる監督であろうが、私の理想と求めているものは商業映画ではなく、映画を通して自分自身が作りたいものをつかんでいるのです。」「¹⁰⁾と語っている。では『スパイシー・ラブスープ』に現れる張揚の作り

たいものとは何か検討してみよう。

2.2 『スパイシー・ラブスープ』の男と女

2.2.1. 恋人たちの婚約から結婚式まで

ストーリーの冒頭に、次のテロップが現れる。

恋愛は容易的 成家は困難的 恋は簡単だが、結婚は難しい

相愛は容易的 相处は困難的 愛し合うのは簡単だが、共に暮らすのは難しい

決定は容易的 可是等待は困難的 決断するのは簡単だが、しかし待つのは難しい

そして麻辣火鍋の辛いほうをつつき合う恋人同士の周健と夏蓓が登場する。周健が夏蓓に促されて彼女の両親に挨拶することになるシーンが始まる。周健は夏蓓に「我爸妈说明天想见你。(明日両親が会いたいわって。)」と言われ、「你怎么不早点儿跟我说呀? (なんで早く言わないんだ?)」と返す。周健にしたならそれなりの心づもりが必要なのだが、夏蓓には「他们也是中午才打电话告诉我的。再说了, 早晚不是一样。(お昼に電話で言ってきたの。それにいつでも同じでしょ。)」と言われてしまう。しかも結婚できるかどうか、夏蓓は「那可不好说, 关键还得看你啦。(それはあなた次第じゃない?)」と言うのだ。この時点で、すでに観客は「成家は困難的 (結婚とは難しいものである)」と受け取っていると考えられる。次にタイトル『愛情麻辣烫』が『①愛情②麻③辣④烫』の順に入るが、画面に映る麻辣火鍋の赤い部分から『麻辣 (ピリリとしびれて辛い)』の文字が飛び出してきて、この後二人の人生が辛くしびれるほど難しいのかもしれないと示されている。翌日、おなかをこわしている周健は追い打ちをかけられるように、夏蓓の両親と麻辣火鍋を食べるのだ。

そして最初のエピソード《声》に続いていくのだが、この先も周健と夏蓓が五つのエピソードをつなぐ役割として①③⑤⑦⑨⑪に登場する。①周・夏の婚約②《声》③周・夏の新居への引っ越し④《マージャン》⑤周・夏が二人で結婚指輪を買いに出かける⑥《おもちゃ》⑦周・夏二人がついに婚姻届を出す⑧《十三香》⑨結婚記念写真の撮影で、泣き出す夏蓓と彼女を慰める周健⑩《写真》⑪周・夏の結婚式の順番にストーリーが進んでいく。

ここで注目したいのは①婚約に向けての周の緊張感【男】②少年・王艾の恋【男】③二人の第一歩となる引っ越し【男女】④未亡人李林娜の余生【女】⑤二人の第二歩となる指輪【男女】⑥余小輝・陳静夫婦が手に入れた本当の結婚生活【男女】⑦夏の結婚後に対する不安と二人の結婚証書【男女】⑧結婚し子供がいても離婚する建強・淑慧夫婦【男女】⑨夏の涙と結婚写真【女】⑩夏小万と林雨青の出会いと林の不安【男女】⑪二人の結婚式【男女】と、避けて通れない人の一生を⑧を除き各エピソードの登場人物によるナレーシ

ョンを入れながら、恋や結婚に対する男と女の視点を描き出していることである。

続いて、各エピソードを詳しく見ていく。

2.2.2. エピソード1《声》：少年の淡い恋心

音好きの少年・王艾が生まれたばかりの頃母に太鼓であやされたことを振り返るナレーションが始まる。「也许，也许就是从那个时候起，我被声音的魔力迷住了。（もしかしたら、あの時から僕は音の魅力に取りつかれたのかもしれない。）」少年は、電車・自転車のベル・ドリル・小鳥のさえずりなどありとあらゆる音をテープに録っているのだ。王艾の不思議な為人が観る側に強く印象付けられ、王艾の視点で話が進む。そんなある日、王艾は最も美しい音を見つける、つまり「不知怎么了，我被她的声音迷住了。（どうしてか分からないが、僕は彼女の声にひかれてしまった。）」と同級生の荷玲の容姿や性格ではなく声に恋をする。そして王艾は荷玲の声をひそかに録音し、自分の声とともに会話をしているかのように一本のテープに編集する。「你喜欢这首歌儿吗？（この歌が好き？）」を「你喜欢和我在一起吗？（僕といっしょにいるのは好き？）」と改めて吹き込み、「喜欢呀（好きよ）」「真的喜欢吗？（本当に好き？）」「真的喜欢呀，怎么啦？（本当に好きよ、どうしたの？）」とテープを使って荷玲にいわば告白する。そしてその返事をもらいたいために、月曜日に白いワンピースを着て来てほしいと言うのだ。しかし荷玲の母が学校にテープの存在を伝えてしまい、翌日王艾は父親と教諭から怒られる。だが荷玲は自分が悪いのは分かっているが母が勝手に言ったのだからどうしようもない、と王艾に謝罪している。そして何もかも終わったのかもしれないと考えていたある日の校庭で、王艾は白いワンピース姿の荷玲を見かけ、「我真的听到了她心跳的声音。我想那一刻，她也一定听到了我的心跳吧。（僕は本当に彼女の鼓動の音が聞こえた。あの時、彼女もきっと僕の鼓動が聞こえたと思うんだ。）」と王艾の荷玲に対する気持ちが再び呼び覚まされるナレーションで終わる。

王艾は、荷玲の声という音から彼女に対する淡い恋心を抱くが、双方の親や学校の教師によりとがめられてしまう。未成年の二人は年長者や保護者の管理下にありながらも、王艾の強い視線が「激しくあなたを探し／激しくあなたを想い／激しくあなたを見ている」

ii) という劇中歌と重なり荷玲を射抜く。彼ら二人の恋は止められない衝動なのである。そして、その衝動は上の世代からの抑圧を受けても終わりはしない『麻辣燙』の『麻（ピリリとするしびれ）』の感覚ではないだろうか。

2.2.3. エピソード2《マージャン》：長き人生の友と伴侶

周健と夏蓓が新しい部屋に入りテレビをつけっぱなしにしていると、李林娜という未亡

人が明日で定年退職なので余生を共に暮らす男性を募集中、と画面越しに言う。

「我想我的新生活从此开始。今后的路还很长。我应该寻找一位有教养善解人意年龄相当，又志同道合的男士为伴，共同人生之路。（私の新たな生活がここから始まるのです。この後の道はまだ長い。私は教養があり人の気持ちが分かり年齢が釣り合い同じ心意気の男性と、人生を歩みたいです。）」

一緒に暮らす娘の明明は「哎，妈，我都挺嫉妒您的啦。你现在出名了，追求的人肯定比我的还多十倍。（お母さん、私お母さんがねたましい、今じゃ名前も知れ渡って、追いかけてくる人がきっと私の十倍も多いわ。）」というから、すでに結婚適齢期を過ぎようとする頃にさしかかったのかもしれない。そして李林娜の自分の道は自分で進みたいという決意表明ともとれることがナレーションで話される。《声》とは全く変わり高齢女性の視点が観客に与えられる。李林娜に舞い込む求婚者は多いため誰か一人というのが決めかねていると、明明に逃してしまうのはもったいないと急かされる。そして明明の計画で三人の男性が同じ日に家を訪ねて来た。後方勤務をしていた退役軍人の銭、高齢者ダンス教室の孫、書籍編集者の趙、このうち銭と孫は先の李林娜のナレーション中に彼女と会っているはいるが、四人ともまだお互いをよく知らない。明明に勧められ四人で麻雀をして親睦を深めていく。しかし李林娜は「我对他们倒真多了点儿了解，也不知道他们对我是怎么想的。（私は彼らのことをたくさん知ったが、彼らが私のことをどう思っているのかさえも分からない。）」と考え、この三人とは結婚しなかった。だが四人は麻雀の後、明明も一緒に全員で食卓を囲み、友となり得たのである。その後、李林娜は人と待ち合わせをしていた老人向け文化教室で出会った書道家と再婚することになる。「没想到最后我们走到了一起。也许这就是缘分吧。（最後に私たちが一緒にいるとは考えもしなかった。もしかしたらこれこそが縁なのかもしれない。）」

この《マー جان》では高齢化社会の一例として、リタイア後の長い人生をどう過ごせばよいかという問題が、登場人物四人でマー جانを打ちながら語られる。子供が独立したならば高齢の親は自分の人生のことを考えるべきだという一つの答えが示される。李林娜は自分の残りの人生を、テレビ出演を通じマー ジャンを打つことで打ち解け合った友人たち、本人は考えもしなかった縁により得た伴侶とともに一人でいることはなくなった。李の家からの帰り、暗い階段を四人は手をつないで降りて行き、李が書道家と知り合う場面では、「私は二度とあなたを孤独にさせない／私の辛さ あなたの純粋さ／私は二度とあなたを孤独にさせない／一緒に長い月日を歩もう」¹²⁾と歌われ、老後の孤独から解放され

た人生というのが示される。ここでは穏やかでしっかりとつながった『缘分（縁）』にこそ李林娜の老年期の静かな愛が象徴されていると言える。

2.2.4. エピソード3《おもちゃ》：子供のいる本当の生活が始まる

周健と夏蓓が高値の結婚指輪を購入後の帰りに、エスカレーターで風船をたくさん持った大人とすれ違いざま、風船の一つが割れて、早朝の寝室に変わる。余小輝と陳静が起きだす。余小輝のナレーションから妻や今の生活が理想と乖離していることが分かる。「又一天开始了。说实话，婚后的生活让我有些失望…（中略）我们生活得毫无热情，每天做着都是同样的事情，除了工作就是吃饭睡觉。（また一日が始まった。実を言うと、結婚後の生活にはちょっと失望させられた…（中略）僕たちの生活はちつとも情熱がないし、毎日することも同じことだ、仕事以外は食事と睡眠しかない。）」男の視点から何の変哲もない日常が見せられる。つぎに明日が自分の誕生日なのでプレゼントが欲しいと言う陳静のナレーションがあり、妻に家事をやらせる夫は自分のことになど興味がなく結婚した当初と違うので「我真不明白，我们之间到底是怎么了？（私は本当に分らない、私たちの間はいつたいどうなったの?）」と不満をもらす。彼らが倦怠期で、つまらない心情が強調される。陳静の誕生日当日、彼女は幼いころに遊んだことがないラジコンカーを余小輝に買わせる。しかし帰宅しても二人に弾んだ会話がないため、陳静から一緒に遊んでほしいと誘う。そして余小輝もついには「真奇怪，这一天我们突然发现了玩具的乐趣，我们两个就像中了魔。从此以后，我们的生活发生了改变。（本当に不思議だ、この日私たちは突然おもちゃの面白さに目覚めた、私たち二人は魔物に取りつかれた、このときから私たちの生活は変わった。）」と二人に転機が訪れたことに気づく。それから二人はおもちゃのゲームの勝敗でどちらが家事をするか決め、おもちゃもさらに増えていく。そして二人は子作りの時でさえ人形を操って気持ちを伝えあうのだ。ところが格闘ゲームでは仲たがいするが、陳静は自宅のベランダに水着姿で横たわりハネムーンを再現し、余小輝も水着で加わり仲直りし、そして子供ができたことが分かる。やがて子供が生まれる。余「是啊，到底什么才是真正的生活，我们也搞不清了。直到有一天，我们又多了一个新的玩具…。我不知道孩子是延续了我们的爱情呢，还是代替了我们的爱情。但令我高兴的是我们真的开始生活了…。（そう、いったい何が本当の生活なのか、僕たちでさえ分からなかった。だがある日、僕たちは新しいおもちゃを手に入れた…。子供が僕たちの愛情をつなぎとめてくれたのか、それとも僕たちの愛情に代わってくれたのか、僕には分らない。でも僕がうれしいのは僕たちが本当に生活し始めたことだ。）」陳「是啊，我感到了一种幸福。（そう、私は幸せを感じたの。）」

30代とみられる倦怠期の夫婦が、自分たちの幼い頃にはなかったおもちゃという刺激を手に入れ、二人の仲の良い関係を取り戻し、さらに新しく子供という世話を焼かなければならないおもちゃを授かる。これら二種類のおもちゃという『辣（辛い）』刺激が、夫婦を相手を思いやれる、そして人の子の親として責任ある大人へと成長させ生まれ変わらせるのである。そして夫婦は本当の生活と幸せを得るのである。

2.2.5. エピソード4《十三香》：家庭は終わりでさえもあつい

周健と夏蓓が結婚証の手続きをしに来たが、夏蓓は実感がわからず、「可你会一直对我好吗？（でもずっと私によくしてくれる？）」「会爱我一辈子吗？（私を生涯愛してくれる？）」と聞いてしまう。結婚後の生活がどうなるのか不安で仕方ない。正式な手続きの後結婚証を得た二人の間に男の子が割り込んで役所の中へ走っていく。実はこの少年、冬冬の両親が離婚の手続きに来ているのだ。しかしその日、二人は正規の結婚証を持っていなかったもので、離婚しようにもできなかった。さて、冬冬は両親の結婚証を探し出し家から持ち出して、道端の運命判断のおばあさんに両親に別れてほしくないことを相談すると、おばあさんから“幸福家庭十三香”という調味料をもらう。どんな効果があるか断言されなかったが、冬冬は使ってみることにした。冬冬が自分の小遣いで食料を買いこみ、両親のために十三香入り料理を作っている時、両親は離婚手続きを済ませてしまった。三人そろって冬冬の手料理を食べる。食事中、母の淑慧は三人での食事の良さを思い泣き出す。食後は家族三人でカラオケを楽しむ。父の建強は冬冬が寝る前に息子とにらめっこをするが、不覚にも泣いてしまう。冬冬を寝かしつけた後、暗い台所で建強は淑慧を抱きしめるが、皿の割れる音で気持ちは途切れて、離婚という現実に戻る。そして翌日、父が出て行く姿に冬冬は涙する。

子供が両親の仲を取り持つために一所懸命になろうと、夫婦の冷めた関係に変化は起こらない。しかし、家族三人の食事、または親子二人でにらめっこをして遊ぶという共同作業を通じて、本来あったはずの気持ちを思い出したり肉親を想ったりして流す涙はあつく、まさに『麻辣烫』の『烫（あつさ）』と言える。だが、夫婦の仲は皿の割れる音と共に修復の可能性は失われてしまう。涙を流してでも手放さなければならないものが存在しても、映画を観る側に失うものに存在する素晴らしさを思い返してほしいというメッセージではないだろうか。

2.2.6. エピソード5《写真》：都会の運命と不安

周健と夏蓓が結婚写真を撮りに来ている。その二人を撮るのがカメラマンの夏小万だ。

彼はカメラ越しに撮影現場を通りがかった林雨青の美しさに惹かれ、街で彼女に会っても気づかないことがないように、彼女の姿を写真に収める。最後の《写真》は夏小万と林雨青の二人が自分たちの出会いを本人の淡々としたナレーションで語り合いながら話が進む。林「其实我老在想这个城市这么大，人又那么多，为什么偏偏是我们两个碰上呢？（でもこの都市はとても大きくて人も多いとずっと思っていたけど、どうして私たち二人は出会ったの？）」街のどこかですれ違っていたら二人がお互いを認識するのは、夏小万が道行く人に香水のビラを配っている林雨青を見失いたくないので彼女にピントを合わせてずっと写真を撮り続けていたその日である。雨の夜、歩道橋で寄り添う二人に会話は無いが、林雨青は出会ったあの日から夏小万のことが好きになったようだ。そして、二人はその日に暗室で結ばれる。だが当時の林雨青は夏小万が本当に好きなのかどうか分からず、仕事に便乗して南方のある都市へ行く。林は「我觉得，这一切来得太快了。（すべてのことが早すぎると思ったの。）」と考えたが、実際に離れてみると夏小万のことが好きな自分がいると林雨青は気づいて北京に戻り、夏小万の働く写真館に行くが彼はいない。夏小万は彼女が去ったので二度と会うこともないと考え写真館を離れたばかりだったのだが、彼の車がパンクして動けずにいるところに林が通りかかり、二人は再会できた。夏「你相信缘吗？（縁を信じる？）」林「相信。其实有很多人天天都相遇，但是永远都视而不见。（信じるわ。毎日顔をあわせていても、永遠に見抜けない人がたくさんいる。）」自分たちの信じた縁により二度と離れないと誓いあう二人は、夏小万の部屋で一夜を共にした。次の朝、林雨青は朝食を買いに外に出たが、同じ形の高層アパートに取り囲まれていて、どの部屋をたたいても彼のもとへいっこうに帰れない。円形をつくるように敷かれたタイルの中心でとまどい、居所の分からない不安で険しい表情の林雨青が遠景のショットで映される。

《写真》の恋人たちは『麻（ピリッ）』ときた一目ぼれで惹かれあい、自分たちの信じる縁により結ばれたと考えている。しかし林雨青が夏小万の部屋に戻れたのかが示されないままエピソードは終わる。この恋人たちも出会った当初はお互いを運命の相手だと思うのに男女間で差があるように、観る側の人々が縁だと思うものはそれぞれ違うはずで、自分が信じるものをもう一度見つめ直してほしいと、林雨青の表情を通して問いかけられていると考えられる。

映画の最後は、周健と夏蓓の結婚式が催され、観客と同じ目線を持ち画面に映らない列席者の「一起吹！（一緒に吹いて！）」「白头到老！（白髪になるまで末永く！）」のかけ声で、二人は粉を吹きかけ合い真っ白になる。観客は周健と夏蓓の結婚までの道のりや他の

エピソードの登場人物に起こった出来事に仮託して、自分自身の人生の過去と未来における愛情とは何かを改めて考えさせられるのである。

3. おわりに

これまでみてきたように、張揚の『スパイシー・ラブスープ』は多くの人が集まる都市で、期待をふくらませながらも不安なこともある一組の恋人たちの、恋愛から婚約そして結婚へいたる人生に、五つの別の人生の節目を一つの可能性として見せながら、現代中国における愛情とは何かを問いかけた映画であると言える。

《声》では、王艾と荷玲の淡い恋と、特に王艾の異性への強い目覚めが描かれる。年長者の管理という抑圧を受けながらも、子供から大人へ成長する『麻（ピリッ）』とするきっかけなのである。《マージャン》では、高齢化社会においてリタイア後の人生をどのように過ごすべきかという問題が投げかけられる。友人を得るのも、伴侶を得るのも『缘分（縁）』なのである。《おもちゃ》では、倦怠期の夫婦がおもちゃで仲直りし、最後に子供というおもちゃを得て、本当の夫婦の生活や幸せを得る。おもちゃという『辣（辛い）』刺激があるからこそ、成長していけるのである。《十三香》では、子供がいながらも離婚する夫婦が登場するが、離婚の原因は示されない。たとえ離婚に至っても夫婦で歩んできた人生を思い返して、最後の子供の涙を忘れないでほしいというメッセージがあるのではないだろうか。《写真》では、『麻（ピリッ）』と感じて一目ぼれする夏小万と林雨青の若い恋人が登場する。しかし最後のシーンで林は夏の部屋へ戻ろうにも戻れない。彼女が彼氏の部屋へ戻れたかどうか映像では映されずにエピソードは終わり、信じるものを見失った時に自分自身はどうするのだろうかと考えさせるのである。

【注】

- 1) 本稿ではテキストとして、①DVD（ポニーキャニオン、2000）②パンフレット（1999年10月30日（株）東光徳間）を使用する。台詞の引用は①の字幕および②の採録シナリオを参考にし、邦訳は筆者による。また劇中の歌詞の引用は③オリジナルサウンドトラック CD（ロックレコード、1999）を参照している。『爱情麻辣烫 Spicy Love Soup』（邦題『スパイシー・ラブスープ』）張揚監督、張揚・劉奮闘・刁亦男・蔡尚君脚本、1997年西安電影制作廠・西安藝瑪電影技術有限公司共同製作、1998年公開
- 2) 「第五世代」の概要については章柏青（1999）、楊遠嬰（2001〔2002〕）などを参照。
- 3) 『電影芸術』1999年第3期に掲載された「1998年国産影片票房收入排行榜（1998年国産映画興行収入ランキング）」によると、500万人民币元を超す興行成績を収め、第4位にランクされている。

- 4) 周星 (2005) 310 頁、顧崢 (2004) 179—181 頁、高力 (2001) および注 1)②などを参照。
- 5) 張華勛は 1936 年四川省に生まれる。1958 年北京電影学院に入学、卒業後は北京電影制片廠 (北京映画制作所) に配属される。“第三世代”監督・崔嵬 (1912—1979) に師事。80 年カンフー映画『神秘の大仏』で監督デビュー。他の監督作品に 83 年『武林志』、85 年『瀚海潮』、87 年『天音』、88 年『OK! 大肚羅漢』、89 年『五台山奇情』、92 年『白衣俠女』『超越死亡』、94 年『鏢劍』がある。
- 6) エンドクレジットでは、『胡同のひまわり』(2004、原題『向日葵』)まで張楊を、『帰郷』(2006、原題『落葉帰根』)から本名の張楊を名乗る。『中国電影年鑑』(1998～1999、2000、2002、2006、2007)参照。また松村 (2009) の指摘にもある。
- 7) 朱宇琛「張楊：天堂電影院」『中学生天地 (B 版)』浙江教育報刊總社 2008 年 06 期 29 頁
- 8) 崔南楠「張楊：平實中的光彩」『財形界 MONEY China』2002 年 4 月 96 頁
- 9) 唐斯復 (1998)、注 1)②などを参照。
- 10) 2002 年 7 月 31 日から 8 月 1 日にかけて上海大學影視藝術技術學院で上海電影集團公司との共同開催の下開かれた學術討論會『對話：中國新生代影像』での発言。『電影藝術』2003 年第 1 期 38—41 頁
- 11) 「瘋狂找你／瘋狂想你／瘋狂看你」注 1)③『鴨子 (ダック)』蘇慧倫 (ターシー・スー) を参照。歌詞の邦訳と／は筆者による。
- 12) 「我不再讓你孤單／我的風霜 你的單純／我不再讓你孤單／一起走到地老天長」注 1)①および③『不再讓你孤單 (もう二度と)』陳昇 (ボビー・チャン) を参照。

【参考文献】

- 松村茂樹「張楊映画が描くもの—『世代』と『父子』」『コミュニケーション文化論集 7』大妻女子大学コミュニケーション学会 2009
- 周星『中国電影藝術史』北京大學出版社 2005 年 2 月第 1 版
- 顧崢『新時期中国電影論』中国電影出版社 2004 年 2 月第 1 版
- 吳滌非「守望精神家園—讀解張楊電影」『當代華語電影探索』文化藝術出版社 2004 年 2 月第 1 版
- 楊遠嬰「百年六代 影像中國—關於中國電影導演的代際譜系研尋」『當代電影』2001 年 6 期〔中國人民大學書報資料中心『影視藝術』2002 年第 1 期所収〕
- 高力「飄泊與皈依：“第六代”的主題變奏」『西南交通大學學報 (社科版)』2001 年 2 期〔中國人民大學書報資料中心『影視藝術』2001 年第 5 期所収〕
- 章柏青『中国電影・電視』文化藝術出版社 1999 年北京第 1 版
- 陳向春「并不簡單的愛情故事—評影片《愛情麻辣烫》」『電影文學』1998 年 09 期
- 唐斯復「電影應該是策劃出來的」『電影通訊』1998 年 06 期

A study of Zhang Yang (张扬) 's film "Spicy Love Soup(爱情麻辣烫)"

试论张杨的电影《爱情麻辣烫(Spicy Love Soup)》

TANAKA Yayoi (田中 弥生)

本稿是以 1998 年由张杨导演的电影《爱情麻辣烫》为研究对象，对电影中所展现的中国的现代爱情故事进行分析，目的是为了探讨 1990 年之后被称为中国电影界“第六代”导演的风格和特点。

这部影片中有一对年轻情人，从恋爱开始到结婚时所走的路，在新郎向新娘父母问候、搬新家、购买结婚戒指、办结婚证、拍婚纱照、举行婚礼的每个阶段，尽管都发生了“麻辣烫”一样的插曲。在影片中由《声音》、《麻将》、《玩具》、《十三香》、《照片》五个小故事展现出像“麻辣烫”一样的爱情故事。少年对少女的冲动和长辈对晚辈的管理、年轻人和老年人各自找到伴侣的缘分、有了孩子就有真正的生活的感觉、圆满家庭的破坏都是由普普通通的事所引起的。张杨正是用这些普通的故事，来描述了现代爱情的“麻辣烫”。张杨电影的价值就在于用于普通的现实来和谐可普通的爱情故事。